

FRONT LINE

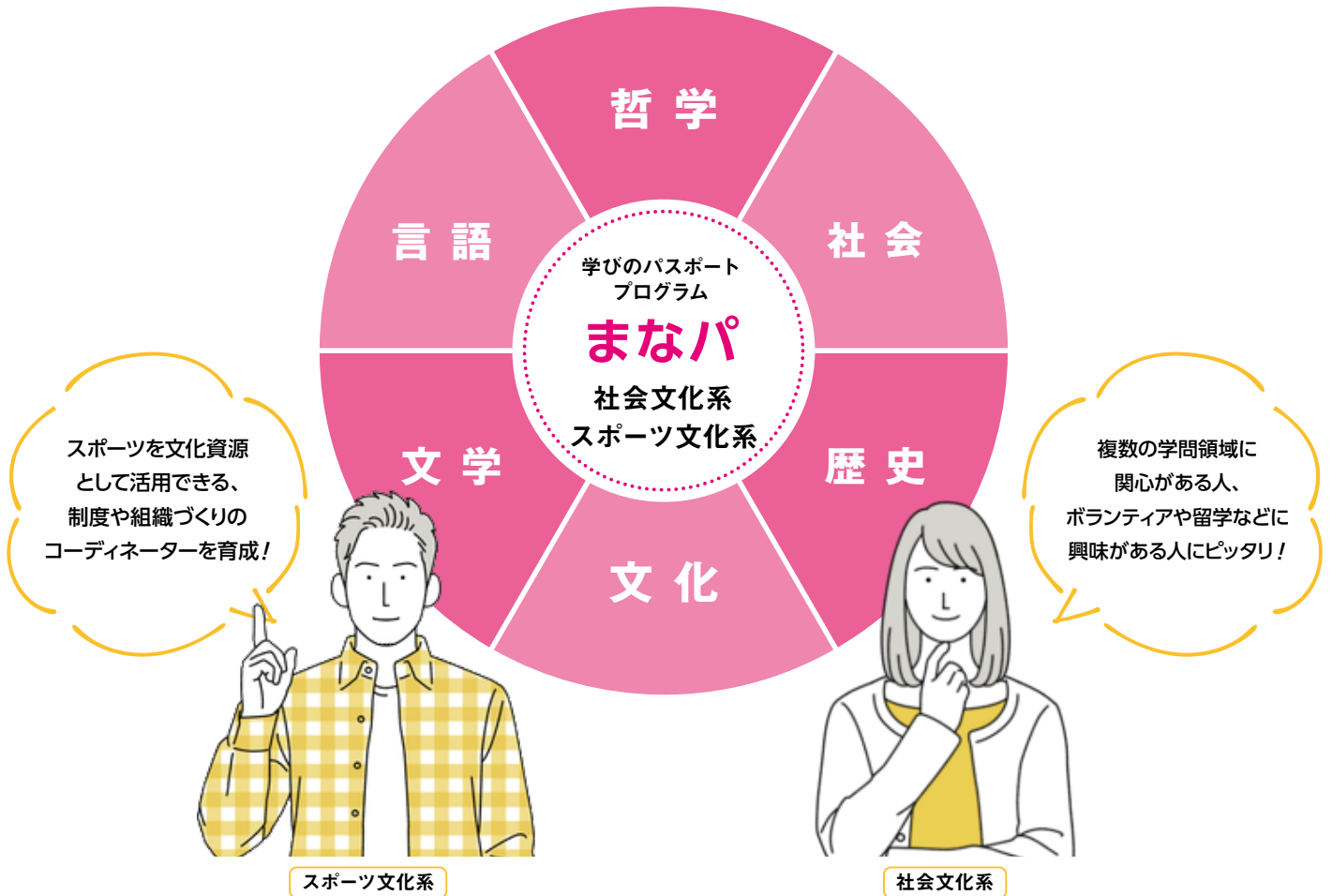
文学部

Faculty of Letters

全13専攻とかがわりながら自由に学べるプログラムが誕生！

「学びのパスポートプログラム」 がスタート！

人文科学・社会科学・自然科学など多様な学問領域を学ぶことができる中央大学の文学部に、みずからの関心に基づいたオリジナル・カリキュラムを作成し、学びをデザインできる「学びのパスポートプログラム」、通称「まなパ」が2021年度より新設されました。



「まなパ」の特徴と2つの系統

激変する現代社会の諸課題を読み解いていくには、さまざまな学問分野の基礎を学び、それらを相互につないでいく自由な発想が必要です。そのような発想を持つ人を育てるのが、「学びのパスポートプログラム」(以下「まなパ」)です。

常識にとらわれない自由な発想は、知識のないところから生まれません。「まなパ」では広範な領域を学べる文学部の利点を発展させ、13のすべての専攻にかかわりながら、みずからの関心を深めていきます。領域横断的な学びを通して自ら課題を見つけ、多角的かつ深く問題にアプローチすることで、複雑な現代社会を生き抜き、変えていく力を持つ人材を育成するのが狙いです。

「まなパ」においては、プログラム担当教員と相談しながら、履修モデルを参考に自分自身の履修計画を作ります。そして、多様な専攻の教員のサポートを受け、その成果を最終的に卒業論文あるいは卒業課題研究へとつなげていきます。

「まなパ」には「社会文化系」と「スポーツ文化系」の2つの学びの系統が用意されています。社会文化系では、文学部13専攻の専攻科目と社会文化系の教養教育の科目の中から、興味関心に基づいたテーマに沿って学生自身がカリキュラムを組み立てます。スポーツ文化系では、段階的・系統的なカリキュラムにより、スポーツを“学問”として学びます。



学びのパスポートプログラム 社会文化系

「演劇教育」を日本の教育現場にも普及させたい

あなびき ことり
穴吹 琴里 私立東京女学館高等学校(東京都)出身

「学びたいことはたくさんあるのに、それをすべて学べる学部が見つけれない」

進路について悩んでいたとき、「学びのパスポートプログラム」の存在を知りました。

私は現在、演劇と教育のつながりに関心を持っており、学校の教育課程に演劇を取り入れられないかと考えています。私自身12年間演劇を続けてきた中で、多くの学びがあったからです。そして、「演劇教育」という考えに出会い、欧米では演劇教育がすでに普及していることを知りました。大学では、日本で演劇教育が普及していない理由を明らかにしたうえで、演劇教育を教育現場に取り入れる方法を探りたいと思うようになりました。

しかし、これを実現するには教育分野の学びだけで足りません。たとえば、社会学的観点から日本と欧米の演劇に対するかかわり方の違いを調べたり、歴史的観点から各国における演劇の普及の過程を学んだりする必要もあるかもしれません。このように考えたとき、さまざまな分野を横断しながら学ぶことが重要だと感じました。その点

において、あらゆる専攻にかかわりながら自らの関心を深めていく「学びのパスポートプログラム」は私にとって最高の環境だと感じ、進学を決めました。

目下の目標は、社会統計学や社会調査法を学び、仮説構成・本調査の実施・分析・仮説検証など、社会調査の全過程を体系的に捉えること。加えて、教育研究法・教育方法学を学び、演劇教育教材の開発の課題も検討していきたいです。また教育と社会・制度・教育概論も学び、教育現場の実態について教育社会学の視点からアプローチしたいと考えています。そして、学校・家庭・地域社会における教育を、制度・経営・社会環境の変化と関連付けて考察していきたいです。

「学びのパスポートプログラム」にはさまざまな関心を持つ学生が集まっています。もしかしたら、自分の関心がなかった分野に演劇と教育をつなぐ大きなヒントが隠れているかもしれません。学生同士のつながりを通して多様な価値観に触れ、自分の中の選択肢が増えていくのが今からとても楽しみです。

Message 



学びのパスポートプログラム スポーツ文化系

スポーツのすばらしさを伝えられる人になりたい

おの ゆうじ
小野 祐司 私立東京都市大学等々力高等学校(東京都)出身

高校3年生の春、塾の先生から中央大学に新設の学科があることを教えてもらいました。それが「学びのパスポートプログラム」でした。

「学びのパスポートプログラム」には「社会文化系」と「スポーツ文化系」の2つの系統があり、私が興味を持ったのは「スポーツ文化系」です。

2010年、中央大学のOBでもある元プロ野球選手の島袋洋奨さんが興南高校時代の甲子園春夏連覇を達成したとき、私は沖縄県に住んでいました。優勝にわく人々の熱気を肌で感じ、スポーツの魅力に気付かされると同時に、スポーツ観戦が趣味になりました。同時に、スポーツビジネスを学べる大学へ行きたいと思うようになり、とりわけスポーツと地方創生のかかわりに強い関心を抱くようになりました。「学びのパスポートプログラム」なら、幅広い分野の知識を修得すると同時にスポーツに関する見識も深められると感じ、入学を決めました。

現在は、「スポーツとマネジメント」や「スポーツと地域社会」といった授業に加えて、「入門・政治」や「現代中

国事情」「宗教と社会」などの授業も履修しています。ほかの専攻の分野の授業は、教養を養えるだけでなく、スポーツを多角的に理解することにも役立つと考えています。大学の授業は専門性が高く、1回の授業で多くのことを知ることができるのでとても刺激的です。

また授業だけでなく、スポーツですばらしい成績を収めているクラスの仲間にも大いに影響を受けています。大学入学前は、スポーツの第一線で活躍する人との接点はまったくなかっただけに、このような仲間たちと同じ授業を受けられて光栄です。

実は高校時代、プロ野球チームや野球の独立リーグ、スポーツ雑誌の編集長らに個人的に取材をした経験があります。このような経験も活かしながら現状のスポーツの課題を解決し、スポーツの良さ、スポーツがもたらす感動を、より多くの人に伝えられる人材になるのが私の夢です。同時に、「学びのパスポートプログラム」の1期生としてこのプログラムが有名になるようがんばりたいと思います。

Message 

どのようにつながかは学生次第
新しい世界を拓こう!

社会文化系

現代社会は情報化が進む一方で、各分野が高度に専門化され、組織の分断といった問題を招くことも珍しくありません。そこで必要とされるのが、多様な専門家をつなぐ人たちの存在です。社会文化系では、科目と科目のつながりをみずから発見しながら、多様なものの見方や考えを見つけることをめざします。

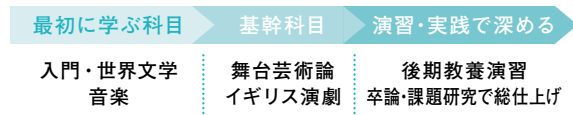
Interdisciplinary Studies Programme

たとえば...

舞台芸術論を学ぶ

文学部の多彩な領域の専門家が集い中央大学文学部でしか学べない「舞台芸術論」を成り立たせています。

履修例(1年次から4年次)



広く深い教養／多様な語学科目

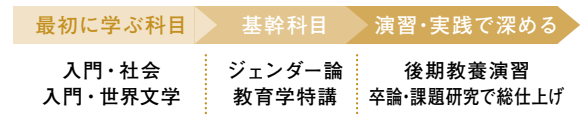
美術史／映画論・映画批評 ギリシャ語／ラテン語

たとえば...

ジェンダー・ダイバーシティを学ぶ

多様性を前提とした社会の構築は、文学部だからこそできる多様な学問領域からのアプローチを必要とします。

履修例(1年次から4年次)



広く深い教養／多様な語学科目

宗教と社会／社会階層論 スキルアップ外国語

文学部に設置されている広範な科目の中から、複数の学問分野にまたがる科目を総合的・横断的に学ぶことができます。文学部ではたくさんの科目の中で"迷子"にならないよう履修のモデルを提示しています。



社会文化系の教員よりメッセージ

「社会文化系」のプログラム科目は卒業論文・卒業課題研究以外はすべて総合教育、つまり教養の授業です。それを補完するのが、13の専攻が用意する専門性の高い授業です。幅広い教養と視点を身につけ、専門分化した社会を多角的に考えたり、専門家をつないだりする能力を磨く、それが社会文化系の学びです。

そのために必要となる土台は2つ

あります。一つは、異なる人や学問に開かれたマインドとそれを可能にする技能で、その習得を前期の基礎演習でめざします。

もう一つは、多様な学問の存在を知り、それらを探求するために必要な道具を使いこなせる知識。これを習得するため、学生には早い時期に文学部の13専攻すべての共同研究室を訪問してもらいました。

後期には一つのテーマについて、

13専攻の教員がそれぞれの学問的な切り口で講義を行うオムニバス形式の授業も用意されています。ただし、専攻の専門的な演習の多くは、その専攻の学生以外には開かれていません。「学びのパスポートプログラム」の学生は、教員から読むべき図書資料のアドバイスを受け、自分で学ぶことが必要です。その自律性を身につけることも社会文化系の学生の重要な目標です。



「世界言語」スポーツの文化を
ともに学ぼう！

スポーツ文化系

「より高く、より速く」をめざす競技スポーツも、
大自然にチャレンジするアウトドアスポーツも、
その根底にある「楽しさ」は共通です（組織も、指導も、評論も）。
年齢、性別、言語、国境を越えて共有できるスポーツ文化を、
多様な視点から分析し、新たな知見の獲得をめざします。

Interdisciplinary Studies Programme

スポーツ文化を学ぶ

文学、言語、哲学、芸術、宗教—人類
がその長い歴史のなかで紡ぎあげた文
化はこれだけにとどまりません。身体
運動文化、すなわちスポーツもその一
つなのです！

履修例（1年次から4年次）

| 最初に学ぶ科目 | 基幹科目 | 演習・実践で深める |
|----------|------------------|----------------------|
| スポーツ科学概論 | スポーツ社会学 スポーツ史 | 専門演習 卒論・課題研究で総仕上げ |

広く深い教養／多様な語学科目

身体文化と歴史／スポーツ倫理学／スポーツと地域社会

スポーツ・身体・健康を学ぶ

「体育」や部活動に留まらず、これか
らはさまざまな場面でスポーツに関わ
る機会があります。人間理解を追求す
る文学部の幅広い教養科目により、心
と身体の双方への洞察を深めることが
できます。

履修例（1年次から4年次）

| 最初に学ぶ科目 | 基幹科目 | 演習・実践で深める |
|----------|-----------------------|-------------------------------|
| スポーツ科学概論 | 運動と生理の医科学 運動と食事の科学 | 生涯スポーツ演習／専門演習 卒論・課題研究で総仕上げ |

広く深い教養／多様な語学科目

障害者スポーツ／健康・医療心理学／発達心理学

アウトドアを(で)学ぶ

競技スポーツだけがスポーツではあり
ません。観光資源として注目されてい
るアウトドアスポーツについて、実践
を通して理解を深めていきます。人と
人とを結びつける力。被災時の安全確
保に役立つサバイバル術も！

履修例（1年次から4年次）

| 最初に学ぶ科目 | 基幹科目 | 演習・実践で深める |
|--------------------|------------------------|----------------------|
| 体育実技 (アウトドア系種目) | 野外教育・防災教育演習 スポーツと安全 | 専門演習 卒論・課題研究で総仕上げ |

広く深い教養／多様な語学科目

スポーツと地域社会／自然災害／ボランティア論

スポーツ文化系の教員よりメッセージ

「スポーツ文化系」では、スポー
ツおよび身体活動を通して、それを
取り巻くさまざまな事象に向き合
い、その中で学生みずから課題を見
つけ、多角的に考察することで学修
を進めていきます。

高校までは、「スポーツ＝体育の
授業」と捉えがちであったスポーツ
領域について、心身の健康・地域活
性化・コミュニケーション・生涯ス
ポーツといった幅広い視点から捉え

直します。現代社会が抱える諸問題
の解決に向けて、スポーツがどのよ
うに貢献し得るかについて、複眼的
に思考できるようになってもらうの
が目的です。これは多様な学問分野
を擁する文学部だからこそ可能なカ
リキュラムと言えます。

したがって、このカリキュラムは、
「スポーツをする」「競技スポーツに
関わる」人だけを想定したものでは
決してありません。

「競争」から「共創」へ」をキャッ
チコピーとして、3名の専任教員が
それぞれの専門分野を生かし「ス
ポーツ文化／スポーツ・身体・健康
／アウトドア学修」といった領域を
体系的に学べるようにサポートし
てまいります。

体育専門学部とは異なる多様な
人材を社会に送り出し、スポーツ選
手のキャリア支援にも結びつけた
い、そう考えています。

「実践的教養演習」の1年目の成果

「自分たちで学びをカタチに」をキーワードに、2020年度から文学部で始まった授業「特別教養・実践的教養演習」。

初年度は「ヒトとモノ」を共通テーマに学生たちが少人数の3部門に分かれ、

「大学の授業で使う教科書の出版」「文化資源を紹介するキャンパスマップ制作」「文学部の魅力を動画で発信」

という3つの課題に取り組みました。学生自身がテーマの検討、コンセプトを決定し、

その道のプロである外部講師のレクチャーも糧としながら創り上げた3つの成果をここにご報告いたします。

実践的教養演習



専攻の枠を越えて履修!
「領域横断」「主体的対話」
「実践と創造」で
学びをカタチにしました!



01

出版部門

大学の授業で使う教科書をつくる

Publishing

「ヒトとモノ」という共通テーマを咀嚼し、「ヒトとホン」を部門のテーマとしたうえで、大学の初年次、および中央大学進学をめざす高校生を対象にして出版する教科書の企画・編集に取り組みました。ゲストスピーカーにお招きしたのはプロの編集者・コピーライター。実際の作業に即した指導を受け、学生は初歩から本作りを学びました。そして、企画立案、本学教員・兼任教員への原稿依頼を経て、寄稿された原稿の編集作業や執筆者の座談会を開催。無事、中央大学出版部への入稿を終えました。本書籍は9月に刊行予定です。



「20歳前後に読んだ一冊」“成果物”の教科書に論稿をまとめる

ほそき ゆうすけ
細木 勇佑 法学部政治学科3年／私立日本大学藤沢高等学校（神奈川県）出身

「本を作り、実際に出版することができる」という、本好きにとってまたとない機会に導かれ、他学部履修制度を利用してこの授業に参加しました。テーマは読書体験についての論稿を集めた「20歳前後に読んだ1冊」。執筆者の選定と原稿依頼の手続きには苦労しましたが、後期の授業ではプロの編集者やコピーライターの方の話を詳しく伺うことができ、本作りの面白さを知るとともにこの授業のぜいたくさを実感しました。「この授業には、授業の枠組みを超えて熱中できる何かがある」、私はそう考えています。



02

イベント部門

文化資源を紹介するキャンパスマップ制作

Event 

ヒトを介したモノの来歴を知ることをテーマに学内の文化資源を調査し、キャンパスマップを作成しました。文化資源調査を専門とする日本史学専攻の教員をはじめ、学内広報誌のデザインに大きく関与された広島大学の教員やイベントプロデューサーをゲストスピーカーに招き、文化財調査や保護の重要性、モノを魅力的に見せるデザインやプロデュースの方法などを学び、それを生かして作業しました。成果報告会ではオンラインで中継を結び、取り上げた学内文化財がある場所でそれを紹介するという斬新な企画も盛り込みました。

学部を超えて履修。新たな気付きを得る

うちだ ひょう
内田 彪 国際経営学部国際経営学科3年 / 私立東洋高等学校(東京都)出身

他学部の授業を通して多角的な視点と柔軟な思考を身につけたいと考え、国際経営学部から参加しました。何かを企画立案する際は、一般的にはターゲット設定から行るのが基本ですが、それが思考法や方法論の選択を狭めることもあるのでは、と考えさせられました。異なる考えを持つ人との授業は非常に有意義でした。また、実際のマップ制作においては、調査でわかった内容をいかに紙面に反映させるかという「情報の精査」と「要約力」の重要性を痛感しました。今後はこのスキルも伸ばしていきたいです。



03

映像制作部門

文学部の魅力を動画で発信

Movie 

映像というモノを通してヒトに伝える意義や魅力を考えながら、前期はリモートでしたがグループで身近な素材を用いて動画の作成に取り組みました。後期は“文学部の魅力”を伝える動画の作成に取りかかりました。映画監督、脚本家、テレビ局のディレクターをゲストスピーカーに招き、映像を撮る際に心がけるべきこと、映像のストーリーをいかに創り上げるかということ、編集をどのようにするかといったことを具体的に学び、意識を高めて映像制作に臨みました。完成した動画はウィットに富んだ仕上がりとなり、大学説明会でも活用していく予定です。

映像編集技術や課題解決力を養う

ささき あいか
佐々木 愛夏

文学部人文社会学科フランス語文学文化専攻3年 / 群馬県立太田女子高等学校出身

広告業界に興味があり、制作側を体験してみたいと思い、映像部門を志望しました。演習が始まる際、私たちが最初に決めたのは「この制作を通して全員がスキルアップすること」。メンバーの中には、広告研究会などに所属していて、すでに編集技術を持っている人がいたので、みんなで教わりながら制作を進めました。役割分担やどう進めるかといった相談もこまめに行ったため、計画性や課題解決力も養われました。この経験をもとに、将来は人の心を動かすような広告人になりたいと思っています。



イベント部門と映像制作部門の成果物は下記サイトでご覧いただけます。

<https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/characteristic/subject08/>

